

令和3年度 第5回府中市スポーツ推進計画検討協議会

日時：令和3年5月11日（火）

開催：府中駅北第2庁舎 3階会議室

形式：Web会議（CISCO Webex Meetings）

出席者：

<委員>

植竹照雄、植田悠太、佐藤美枝子、高峰 修、田口祐貴、
本田純子、吉松久美子（五十音順、敬称略）

<事務局>

文化スポーツ部長（関根）、スポーツ振興課長（市ノ川）、同課長補佐（塚本）
スポーツ推進係長（中村）
スポーツ振興課職員（布施・川原）
（陪席関係課）建築施設課文化・スポーツ施設老朽化対策担当副主幹（後藤）

<事務局支援事業者> 株式会社創建（本多）

欠席者：

<委員>

朝日マヤ、小島壽一郎、佐藤光宏（五十音順、敬称略）

開式

会長 皆様、こんにちは。ただいまから第5回目になります府中市スポーツ推進計画検討協議会を開催したいと思います。

事務局 皆様、こんにちは。本日はご多忙のところ、本協議会にご出席を頂きましてありがとうございます。本日の出席状況でございますが、委員定数10名中、現在6名の委員の皆様にご出席を頂いております。したがって、府中市スポーツ推進計画検討協議会規則第4条の2項に基づく過半数の出席を頂き、定足数を満たしておりますので、本日の会議が有効に成立することをご報告申し上げます。以上です。

会長 次に、事務報告をお願いいたします。

事務局 本日の資料の確認ですが、まず1点目が第4回協議会の議事要旨。A4の2枚のものになります。

続きまして2点目が、「令和3年度のスケジュール（案）」資料1というものでA4、1枚

になります。

続きまして「計画の素案」、資料2というものでA4の冊子になっているものです。

続きまして「協議会意見の対応」というA4、1枚のもので資料3になります。

また、本日の傍聴希望はございません。以上でございます。

会長 それでは、議題に移りたいと思います。

まずは報告事項1になります。「第4回協議会の内容の確認」についてです。事務局からお願いいたします。

事務局 お手元の参考資料「第4回協議会議事要旨」及び第4回協議会の報告とともに事前送付いたしました「第4回協議会議事録」を御覧ください。

記載事項についてご自身の発言箇所も含め、訂正が必要な箇所等がないかご確認をお願いいたします。

会長 よろしいようですね。

それでは、次に報告事項2の「令和3年度スケジュール(案)について」事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、続きまして「令和3年度スケジュール(案)について」事務局から説明をさせていただきます。

本協議会は、令和2年度より全8回の開催を予定しております。令和2年度には4回実施いたしましたので、令和3年度は本日も含め残り4回の実施を予定しております。

本日より計画の素案の作成に加え、答申内容の検討を行い、その内容も踏まえた素案の確認を経て、令和3年9月中旬に予定しております第8回の協議会にて、正副会長から教育長に答申書を提出していただきたいと考えております。

その後、事務局において素案を基に計画案として整えた後、令和3年11月末頃に約1か月間にわたってパブリックコメントを実施し、その意見等も反映させた上で計画書の完成を予定しております。

会長 これについて何かご意見、ご質問はございますか。

それでは、協議事項の1「計画骨子の策定に向けて」について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 お手元に資料2「計画の素案」と資料3「協議会意見の対応」をご用意ください。

「計画の素案」は、これまで委員の皆様から頂きましたご意見を基に、現行の計画も含めて記載をしております。

本日、委員の皆様にご協議をお願いしたいのが、21ページ以降の「第4章 施策の展開と具体的な取組」でございます。こちらでは4つの基本目標、「そだてる」「ささえる」「する」「みる」ごとに基本施策と取組をお示ししております。また、「協議会意見の対応」は、これまでの協議会で委員の皆様から頂きましたご意見から主な内容をまとめ、本市としての対応と計画のどの施策に反映するかの方案をお示ししているところです。なお、この内容は次の議題の答申案にも反映する予定でございます。

創建 補足としてご説明いたします。まず計画素案のたたきは皆さんに全体感をつかんでいただくために作成したもので、中身に関しては現行計画から引き写した部分もございます。資料はたたき台というところでご認識いただき、委員の皆様にご意見頂きながら内容を検討していきたいと思っております。

会長 それでは、本題に入りたいと思っております。協議事項の1、計画骨子についてです。その中のメインとしては、19ページ辺りからということになります。

19ページに図示されており、さらにそれが21ページ以降で展開されるという構成になっております。まだまだ本当に枠組みだけ示している段階ですが、皆様のご意見を頂きたいと思っております。大枠として「そだてる」「ささえる」「する」「みる」という大きな柱を立てて、それに沿いながら骨子を展開していきます。

1点確認ですが、19ページには基本目標のところに、「そだてる」「ささえる」「する」「みる」という表記がありますが、21ページ以降の基本目標の1、基本目標の2、ここの中には「そだてる」等々の表記は入れますか。

事務局 入れるつもりでございます。

会長 したがって、この4本柱が基本構想ということになります。

事務局 創建さんと調整の上、事務局で資料3の皆さまから頂いたご意見をまとめさせていただきます。加除修正必要箇所がございましたらご教示ください。

委員 その前に16ページの「スポーツタウン府中の発展」というのは非常に重要な大目標になるのですが、具体的なイメージがなかなか分かりづらいと思っております。

16ページの「『スポーツタウン府中の発展』につなげていくものとします」という文言の

後ろに、「具体的には府中市民がそれぞれの立場でスポーツと関わり、府中市民としての誇りを持てるまちをイメージします」という一文を入れたほうが、スポーツタウン府中のイメージが湧くのではないかと思います。

会長 これについて、何か事務局か創建さんから補足はありますか。

事務局 頂いたご意見も踏まえて現行計画のスポーツタウン府中についての定義も引き継ぎながら、検討いたします。

創建 計画の基本的な考え方、府中市のスポーツは何なのというところ、「『スポーツ』とは」を定義した上で、そのスポーツがまちにどう寄与しているか、「スポーツタウン府中」とは何か。これが現行計画の中では、スポーツの生活化となっております。こういったテーマが掲げられてきた中で、次の8年の中ではスポーツというのをどう捉えていくのか。そのスポーツタウン府中が発展していくというのはどういうことなのかということからご議論いただき、基本目標、基本施策、事業、取組を改めて筋道立てて考えていくということが必要なフェーズと認識しています。

会長 例えばこの市民は誰なのかということを考えて、障害のある方との関わりイメージをいれるという考えもあります。

事務局 ここは広い意味での市民という捉えをしておりますので、ジェンダーや障害の有無含めて、市民全体がスポーツに向かっているまちというイメージで考えて、例えば障害スポーツだとか、ジェンダーに関する部分というのは、もう少し下のフェーズで落としていく話になってくると捉えています。

委員 市民協働都市宣言の一文の中に、それぞれの役割があるのだということで、できることから主役となって、市民がまちづくりに参加するのだという一文があるので、これは非常に重要なことかなと思います。

事務局 その点は触れていかなければいけないと認識しておりますので、協働やSDGsの関係もそうですが、今の時代だからこそ入れなければいけないような考え方というのは、積極的に入れていくべきだと思っております。

会長 了解しました。それでは、今度、協議事項2になります。「答申(案)の作成に向けて」です。

事務局 「答申(案)の作成に向けて」についてご説明いたします。先ほども御覧いただ

きました資料3「協議会意見の対応」を御覧ください。

ここでは新たなご意見を閣達にお出しただけだと思います。その内容を事務局にて再度取りまとめ、答申案を次回までに作成してまいりたいと思います。

創建 こちらの資料が、表の形式になっていて、事務局の中で意見を取りまとめて、答申書としてまとめていくためのプロセスを皆さんと共有するという目的で作った資料になります。

会長 1つは、前回の議事要旨との関わりで、前回議事要旨の1ページの下の方に、市内のいろいろな団体とか組織であるとか、そういう関係者がコミュニケーションを取って、課題とか取組、情報とかを共有する、ここでは「座組」と書いてあるものがあるといいのではないかなと思います。それが結局地域のそれぞれの市民も関わる、育てていくことになるというイメージがしていたのですが、こういう枠組みについては資料3には特には反映されていないように思います。

事務局 資料3の21番の「トップチームと地域クラブとの連携をもっと深めていけば」というご意見にて反映しております。

会長 もう少し姿を浮き上がらせてもいいかと思えます。

事務局 市としても考えているのが、府中市にはトップチームがたくさんありますが、今までは個別で対応していたところを、府中市側のスポーツコミッションみたいなものを作っていく中で、まずはトップチームの横の連携も含めて検討していき、そこに地域の団体さんとかもどう関わっていくかを検討したいと思っています。例えば、地域でトップチームの方々とイベントをやっていくことや、学校の前での挨拶運動をするかとか、小さなところから様々なご協力を頂くということも可能かと思っています。

トップチームに限らず、それ以外の団体ともうまく連携を取れるような形が何か作ればと思っておりますが、まずはトップチームの皆さんと横連携を含めて、市として様々なご協力をお願いしたいと思っています。

会長 本来でしたら、市民の活動からそういう仕組みができていくのが望ましいのですが、それを行政のほうで土台だけ作るというのは有効かと思えます。距離感が難しいと思うのですが、あまり行政のほうで抱え込まずに市民の活動を中心にしながら、うまい距離感で関われるような場があるといいと思います。

事務局 そこはこれからも各トップチームさんともお話をさせていただきながら、検討していきたいと思います。施策の目標が事業施策には入れていきたいと思います。

委員 24ページが一番下の「スポーツ推進会議」の中で、トップチームも連携して協働・連携体制を構築するものと思っていたのですが、ここにはトップチームは含まれないということに理解してよろしいですか。

事務局 これは現行の計画からそのまま埋めているものなので、当時はとても広い、いろいろな分野のところにお声かけをして立ち上げるイメージで作ってありました。ここは整理する必要があると思ひまして、トップチームはトップチームのつながりがあるので、そこからどう地域活動されているところに繋がるのか、学校さん、教育現場に行くのか、例えば福祉的な分野につなげていくのかを考えていきます。市のほうが要になり、広げていくのはそれぞれの活動になるので、そこをうまくコーディネートできる仕組みづくりができればいいところ考えています。

会長 24ページにある「スポーツ推進会議」というのは、これは特に府中では実施していない委員会ですか。

事務局 課題としてこういったものを実際置けなかったということは事実なので、それを発展的に課題解決していく中で、仕組みづくりを検討していきたいと考えています。

委員 24ページのスポーツ推進会議の設置というところの「スポーツ施設の円滑な実行を目的とし」という箇所ですが、バスケットもフットサルも今、立川のアリーナに移動したという過去があると思うのですが、このトップスポーツを実行する施設が府中市内にない。そこで公式戦があれば、市民の方に観戦に来てもらって試合を見てもらうために日頃から学校に行ったりとか、先ほども出ていましたけど、登下校中に横断歩道に立ったりということがあると、試合に来てもらうというつながりができるので、トップチームも積極的にいろいろな活動に出ていけるかなと思います。スタジアムとかアリーナ建設というのは方向的に難しいのであれば違うアプローチを考えないと、なかなかトップチームがそこに時間と労力を費やす優先順位としては下がってしまうという気がします。

会長 これだけトップチームが今現在、取りあえず本拠地にしているというのはなかなかない条件だと思います。そんなに簡単にトップチームが来てくれるわけではないと思います。ですので、この状況をいかに活かしていけるか、施設等々で限界があるのであれば、それ以

外のアプローチをしていくビジョンを持って取り組んでいく必要があると思います。

それは計画の中に大々的に入れていきますか。

事務局 ハードの問題は本当に市としても課題だと思っているところです。

今回、計画の中でどう触れていくかというところについては、3「する」というコンセプトの中の「スポーツ施設・設備の再整備」の項目の中で触れていくところになります。府中市の施設はかなり老朽化しているところが多くありますので、新しく施設を作るだけでなく、今あるものをどう維持していかなければいけないということも考える必要があります。そうした施設の全体的な整備方針というものが今後決まっていく予定になっています。

その設備方針との兼ね合いもありますので、先に申しあげた項目の中では触れますが、具体的などころまで落とせるかどうかというのは、今のところ難しいと思います。

関連する計画、適正配置的な計画や、新たな建設計画などの流れに沿いながら積極的に進めていくような表記になると思います。

委員 楽しみながらスポーツを取り組む層の人たちに対しては、府中市駅伝や子どもたちのイベントや大会という形でのアプローチが、今ある施設の中からでもできるのではないのかと感じました。ロードレースとか駅伝というのはすごく魅力的だと思います。

会長 今回の基本計画で大枠として、どういう方向に力点を置いていくのかというのは、我々の中でもある程度合意はしておいたほうがいいと思います。

トップチームがあるというのは魅力的ですし、それをいかに市のほうも支援しながら関係を持って、トップチームを核にして展開していくという方向に重きを置くのか。それとも、既存の施設を使いつつ、レクリエーションレベルの活動なんかをもう少し展開していく方向に動いていくという連携があってもいいかもしれないです。

創建 まさにこれから深めていく、どういう方向性を持っていくかのきっかけのご意見を頂けたのかと認識しています。

「そだてる」「ささえる」「する」ということをしていく中で、4の(3)は、ソフトよりの考え方にはなるのですが、トップチームの連携を強化するという考え方を記載しています。トップチームと連携していきながら未来につながるスポーツ文化の形成を考えていく、大きくは「みる」に該当していく整理の仕方になるかと思っておりました。

観戦・応援していきながらトップチームとの連携を増やしていったら、次の計画の中では府中

市の未来につながるスポーツ文化を築いていくという考え方で当てはめていくというのも、1つ計画のまとめ方としてあるのかと考えます。

2点目に関しては、逆に、いわゆる無関心層や、スポーツが苦手だと思っている子たちに関しては、例えば3の(2)より身近にスポーツができる場所を楽しんで、作っていくという方法もありますし、スポーツをもっと気軽に楽しんでもらうため施設を再整備していくという方法も考えられます。子どもというのを特にフォーカスしていくと、学校と連携を強化しながら、小さい頃から楽しんでもらう。「する」環境、場所を整備、充実していくという考え方もあると思います。

それ以外にも例えば基本目標2で、大きくは「ささえる」に位置づけたところでいきますと、障害のある方、児童を含め、スポーツを普及していくという考えもありますし、保護者世代のライフステージ、ライフスタイルに応じたスポーツをすることをしっかり支えていくという考え方もありますし、それ以外に基本目標1で、そういった方を支える人を市としてもしっかり育てるという考え方もあります。

19ページを参考にさせていただきながら、そういった方向性に対してどういった基本施策、柱があると、これからやるべきことがはまっていくのかなというご意見を頂けると、とてもありがたいと感じました。

委員 トップチームとの連携は見るだけではなくて、一緒に体験できることも、スポーツをやったことない子どもたちの一歩にもなるし、一方では、ニュースポーツをやられている方たちとの一歩のつながりとしても、学校と地域クラブとの連携をもう少し取れたら、きっかけづくりができるのではないかと感じておりました。

委員 「日常生活にスポーツを取り入れ、元気に健康に暮らしている」という言葉は、市民1人1人がスポーツというものをどの程度、どの範囲内で捉えているのかということがとても気になりました。

スポーツというのは、競技スポーツみたいなものをイメージしてしまうのではないかと感じてしまったのですが、「元気に健康に暮らしている」というところを考えていくと、シニアクラブ、町会のようなコミュニティではスポーツをやれるのですけれども、そういうところに所属していない人は、どんなふうにしていくのかと思いました。

それと、24ページのスポーツ推進会議は、府中市が要となって広げていくということは、

これが本当に実現したら素晴らしいなと思います。これは本当に理想とするものです。

そういう繋がりを広げていくためにも、今までは府中市、あるいはいろいろな団体が実施しているイベントなどは、実施してそれで終わりになってしまい次につながらない、広がっていかないということが多かったので、先ほど出た学校との連携という意見が活かせるかと思いました。

会長 スポーツのイメージですけども、堅苦しく考えないで、日常的に歩くことも立派なスポーツと捉え、そういう情報発信を同時にもっと積極的にやっていく必要があると感じました。

事務局 例えばウォーキングやお散歩も運動と捉えていただけるような啓発の仕方というのを少し考えていけないといけないと考えております。競技スポーツだとか、どこかの場所へ行かないとスポーツではないという捉え方ではなくて、何かをきっかけに体を動かすということがスポーツとか、レクリエーションにつながっていくのだというところをこの計画の中でどう広めていくかということを考えていかなければいけないと思いました。

それを踏まえてスポーツの実施状況等アンケートを取っている中で、週1回以上のスポーツをやっているかとかという設問で、スポーツ実施率につながっていくのかと思っています。その目標については、17ページの数値目標で、計画全体としてはスポーツ実施率の目標値を、60.8%を65%まで上げようという目標を立てています。まずはスポーツについて知っていただき、それを皆さんが実はやっているのだというところでのスポーツ実施率を向上させるということが必要だと思います。

「そだてる」「ささえる」「する」「みる」、プロ、アマチュア、子ども、大人関係なく、まずはスポーツに関心を持って、自分が実際に体を動かさないでボランティアをやっていたただけでも構いませんので、まずスポーツについてよく知っていただいて、その上で実施をしているという認識を持っていただきたいと考えています。

今、頂いたそれぞれのご意見については、全ては計画全体のスポーツ実施率の向上、また、市民全体がスポーツによって満たされていく部分を検討していきたいと考えています。

委員 きっかけづくりの話とかはしていたのですけれども、府中市で推進委員さんの事業とか、あとは体育館での体操教室などの事業もたくさんやられているのですが、その中で体育館やいろいろなイベントが1回で終わってしまうイベントがたくさんあると思うのです。

計画する上で、参加して下さった方たちがその後どうやってスポーツに取り組んでいくのか、運動に取り組んでいくのかまでしっかりと計画を立ててやっていけば、今後の継続性につながっていくのではないかと思います。

参加した方たちに今後家でやってくださいねというところで終わってしまうのではなく、地域のクラブやトップチームを見に行けることや、参加してみるというような声がけを、子どもたちに対してはあまり継続してできるところがないので、できればイベントをしたときに、次につながる告知をしていくというのも大切と感じております。

事務局 事業によっても若干性格も違いますが、参加者のその後をどういう形で追いかけていくかということ工夫、研究していくことも必要だと思いました。

会長 実際にあるものを工夫して、または組み合わせ、ネットを組むだけでその効果が倍増したりする可能性もあると思います。これ労力はかかりますが、お金はそんなにかからないということもありますので、これはアイデア勝負だと思います。その辺りも少し意識しながらたたき台に落とし込んでいきたいと思います。

委員 先ほどのスポーツの生活化についてなのですが、スポーツというイメージでないもの、例えば縄跳びやけん玉、そのような遊びのようなものもスポーツとして考えていくと、もう少し人数が増えていくと思います。

もう一つ、コムスポリーダーというものが府中市の中に存在しますがなかなか活用が促進されていない状態なのでそういう細かい事業レベルのところを掘り下げて探してみただけるとありがたいと思います。

会長 今まで府中で結構ポッチャなんかやっているという話がありましたが、ポッチャはある意味障害者のスポーツというイメージがあると思うのですが、的当て系のスポーツとしてはすごく幅広く活用できると思うのです。

ちょっと私的な話になりますが、大学の体育実技をやっており、コロナ禍で対面実技ではなく、ダーツやポッチャ、ペタンクなどの的当て系なんかも総動員して展開していますが、半期の授業は十分組めてしまうのです。竹馬、縄跳びとかけん玉など、子どもときの遊びも含めてスポーツのイメージづくりやメッセージを計画の中に行政から発信していければと思います。

事務局 コムスポリーダーについては、登録者がこのところあまり増えていない現状で

す。ここ1、2年はコロナの影響もあって、そういった派遣自体が今、止まっている状態ですので活動はできていないのですが、より積極的に派遣する先を検討し、派遣のタイミングなども広報に記載し周知し、より活用できるような仕組みに見直すことしていくことは必要だと思えます。

会長 それでは、4の「その他」に移りたいと思いますが、何か皆さんのほうからございますか。

事務局 それでは、次回第6回協議会についてスケジュールですが、当初のスケジュールどおり6月22日火曜日の午後2時から開催したいと考えております。

で開催の形式など開催案内は事務局より改めて郵送させていただく予定です。

会長 本日の全ての議題が終了いたしました。本日はこれで散会といたします。

閉式